

## 平成27年産水稲の 8月15日現在における作柄概況

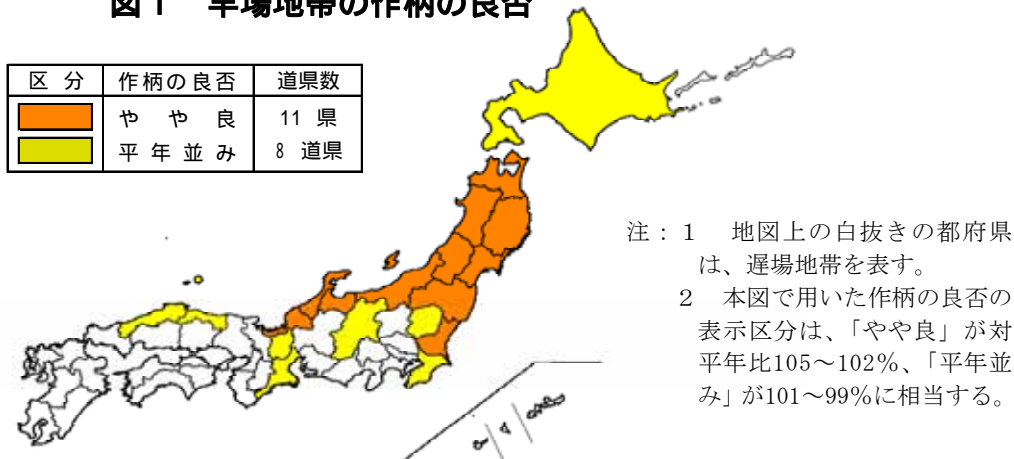
- 8月15日現在の早場地帯の作柄は「平年並み」ないし「やや良」、  
遅場地帯の生育は一部の地域を除きおおむね「平年並み」の見込み -

### 【調査結果の概要】

1 東日本を中心とした早場地帯（19道県）の作柄は、「平年並み」ないし「やや良」と見込まれる。

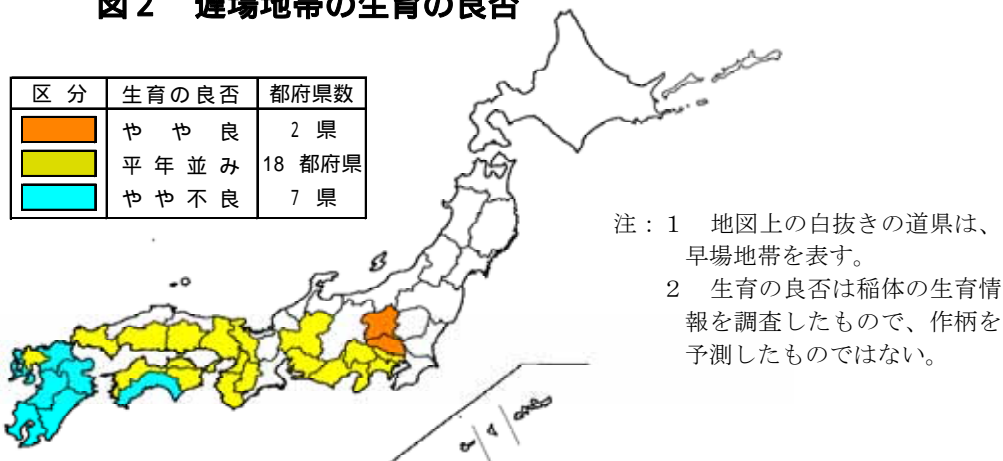
これは、6月下旬から7月上旬にかけて一時的な低温等があったものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから、穂数及び全もみ数が平年以上に確保されると見込まれ、登熟も一部地域を除き順調に推移していると考えられるためである。

図1 早場地帯の作柄の良否



2 西日本を中心とした遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、6月から7月にかけての低温・日照不足の影響により、分けつが抑制された九州等では「やや不良」で推移しているものの、その他の地域ではおおむね「平年並み」で推移している。

図2 遅場地帯の生育の良否



◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める19道県である（平成26年産作付面積割合：67.0%）。
- ・ 遅場地帯とは、早場地帯の道県以外の都府県である（平成26年産作付面積割合：31.4%）。
- ・ 遅場地帯の水稻のうち、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲は、西南暖地における早期栽培等として別に集計している（平成26年産作付面積割合：1.7%）。
- ・ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、8月16日以降の気象条件により作柄は変動することがある。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

【参考】

水陸稲（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲				参 考	
	作 付 面 積 (子実用)	収 穫 量 (子実用)	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	
								ha
平成17年産	1,706,000	9,074,000	1,702,000	532	9,062,000	…	…	
18	1,688,000	8,556,000	1,684,000	507	8,546,000	…	…	
19	1,673,000	8,714,000	1,669,000	522	8,705,000	…	…	
20	1,627,000	8,823,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	
21	1,624,000	8,474,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	
22	1,628,000	8,483,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	
23	1,576,000	8,402,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	
24	1,581,000	8,523,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	
25	1,599,000	8,607,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	
26	1,575,000	8,439,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。

3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

【統計表】

1 平成27年産水稻の都道府県別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

都道府県	田植期					出穂期					出穂済面積割合		
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年度値	対前年差	
				対前年	対前年				対前年	対前年			
月 日	月 日	月 日	日	日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	ポイント
北海道	5. 19	5. 24	5. 30	4日早	2日早	7. 27	8. 2	8. 7	4日遅	7日遅	100	0	
青森	5. 15	5. 20	5. 26	2日早	並み	7. 31	8. 3	8. 7	2日早	並み	100	0	
岩手	5. 8	5. 15	5. 26	3日早	2日早	7. 29	8. 2	8. 8	4日早	1日早	100	0	
宮城	5. 3	5. 10	5. 21	3日早	1日早	7. 26	7. 29	8. 7	7日早	4日早	100	2	
秋田	5. 14	5. 21	5. 28	2日早	1日早	7. 30	8. 2	8. 9	2日早	並み	100	0	
山形	5. 13	5. 18	5. 26	2日早	並み	7. 31	8. 3	8. 11	3日早	1日早	99	1	
福島	5. 9	5. 16	5. 25	2日早	1日早	7. 31	8. 7	8. 14	3日早	1日早	99	7	
茨城	4. 28	5. 6	5. 26	1日早	並み	7. 17	7. 27	8. 10	6日早	2日早	98	2	
栃木	5. 2	5. 6	6. 15	1日早	並み	7. 22	7. 29	...	6日早	3日早	91	4	
群馬	5. 23	6. 12	6. 26	3日早	4日早	8. 5	...	...	...	...	45	8	
埼玉	4. 29	5. 22	6. 27	1日早	1日早	7. 23	8. 10	...	2日早	1日早	64	3	
千葉	4. 18	4. 27	5. 8	1日早	1日早	7. 9	7. 20	8. 1	6日早	2日早	100	0	
東京都	5. 30	6. 13	6. 28	並み	5日遅	8. 9	8. 14	...	2日早	並み	60	4	
神奈川県	5. 16	6. 1	6. 14	並み	並み	8. 3	8. 10	...	2日早	並み	81	4	
新潟	5. 5	5. 10	5. 20	2日早	並み	7. 25	8. 5	8. 13	2日早	1日早	99	1	
富山	5. 3	5. 10	5. 17	3日早	1日早	7. 20	8. 2	8. 11	1日早	並み	100	1	
石川	5. 1	5. 4	5. 24	1日早	1日早	7. 17	7. 29	8. 7	3日早	1日早	99	0	
福井	4. 30	5. 15	5. 26	1日早	1日早	7. 15	8. 1	8. 12	2日早	並み	98	0	
山梨	5. 14	5. 28	6. 19	2日早	2日早	8. 1	8. 8	...	3日早	2日早	78	5	
長野	5. 12	5. 22	6. 3	並み	1日早	7. 30	8. 7	8. 14	1日早	1日遅	96	2	
岐阜	5. 1	5. 27	6. 10	並み	並み	7. 20	...	...	...	...	49	0	
静岡県	4. 27	5. 19	6. 11	3日早	2日早	7. 18	8. 7	...	4日早	2日早	69	5	
愛知	4. 30	5. 23	6. 10	1日早	1日早	7. 23	...	...	...	...	44	1	
三重	4. 18	5. 1	5. 20	並み	1日早	7. 16	7. 23	8. 11	3日早	3日早	97	0	
滋賀	5. 3	5. 9	5. 27	2日早	並み	7. 25	8. 2	...	1日早	並み	94	5	
京都	5. 5	5. 22	6. 4	1日早	2日早	7. 25	8. 4	...	1日早	1日早	81	1	
大阪	5. 17	6. 7	6. 20	1日早	並み	8. 1	...	...	...	...	27	1	
兵庫県	5. 12	6. 4	6. 15	並み	並み	7. 30	8. 13	...	並み	並み	60	△ 3	
奈良	5. 7	6. 8	6. 14	並み	並み	8. 2	...	...	...	...	30	0	
和歌山	5. 3	6. 3	6. 17	1日早	1日早	7. 18	8. 7	...	1日早	並み	86	2	
鳥取	5. 7	5. 25	6. 8	並み	並み	7. 27	8. 7	...	並み	1日遅	85	△ 1	
島根	4. 30	5. 13	5. 31	2日早	1日早	7. 20	8. 3	...	1日早	並み	88	2	
岡山	5. 12	6. 7	6. 21	1日早	並み	7. 31	...	...	...	...	40	△ 1	
広島	5. 4	5. 18	6. 5	1日早	並み	7. 24	8. 8	...	1日早	1日早	70	1	
山口	5. 13	5. 31	6. 21	並み	並み	8. 3	8. 12	...	3日遅	1日遅	62	△ 3	
徳島 (早期栽培)	4. 7	4. 17	5. 3	1日早	1日早	7. 6	7. 14	7. 25	4日早	3日早	100	0	
徳島 (普通栽培)	5. 2	5. 23	6. 13	1日遅	1日遅	7. 21	8. 1	...	並み	1日遅	85	2	
香川	4. 29	6. 14	6. 26	並み	並み	7. 23	...	...	...	...	39	△ 2	
愛媛	4. 22	6. 1	6. 21	1日早	1日早	7. 18	8. 15	...	1日遅	並み	53	△ 1	
高知 (早期栽培)	4. 3	4. 11	4. 23	1日早	1日遅	6. 25	7. 1	7. 12	7日早	5日早	100	0	
高知 (普通栽培)	5. 16	5. 25	6. 13	3日早	3日早	8. 11	...	...	...	...	28	7	
福岡	5. 17	6. 17	6. 26	並み	並み	8. 5	...	...	...	...	29	△ 2	
佐賀	5. 4	6. 19	6. 29	1日早	1日早	7. 24	...	...	...	...	18	0	
長崎	4. 21	6. 14	7. 1	1日早	1日早	7. 19	...	...	...	...	15	0	
熊本	4. 22	6. 14	7. 1	並み	並み	7. 17	...	...	...	...	24	2	
大分	5. 16	6. 13	6. 26	1日早	並み	7. 31	...	...	...	...	19	1	
宮崎 (早期栽培)	3. 20	3. 27	4. 6	1日早	並み	6. 17	6. 23	6. 30	6日早	6日早	100	0	
宮崎 (普通栽培)	5. 29	6. 15	6. 27	1日早	1日早	...	...	...	...	...	2	△ 1	
鹿児島 (早期栽培)	3. 20	4. 4	4. 16	並み	並み	6. 13	6. 27	7. 16	3日早	4日早	100	0	
鹿児島 (普通栽培)	6. 12	6. 21	6. 30	並み	並み	...	...	...	...	...	0	0	
沖縄 (第一期稲)	2. 18	3. 1	3. 21	5日早	5日早	5. 3	5. 19	6. 4	5日早	5日早	100	0	

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。  
 2 出穂期の「始期」、「最盛期」及び「終期」の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。  
 3 出穂済面積割合の対前年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

## 2 平成27年産水稻早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	一穂当たり数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北海道	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
青森	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
岩手	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
宮城	やや良	多い	平年並み	多い	やや不良
秋田	やや良	多い	少ない	やや多い	平年並み
山形	やや良	多い	やや少ない	多い	やや不良
福島	やや良	多い	平年並み	やや多い	平年並み
茨城	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
栃木	平年並み	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
千葉	平年並み	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
新潟	やや良	多い	やや少ない	多い	やや不良
富山	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
石川	やや良	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
福井	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
長野	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
三重	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
滋賀	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
鳥取	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
島根	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み

注：1 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

2 全国の水稲作付面積に占める早場地帯の割合は、平成26年産で67.0%となっている。

### 3 平成27年産水稻遅場地帯の生育状況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生 育 の 良 否	草 丈 の 長 短	茎 数 の 多 少
群 馬	や や 良	平年並み	やや多い
埼 玉	や や 良	やや長い	やや多い
東 京	平年並み	やや短い	平年並み
神 奈 川	平年並み	平年並み	平年並み
山 梨	平年並み	やや短い	やや多い
岐 阜	平年並み	平年並み	平年並み
静 岡	平年並み	平年並み	平年並み
愛 知	平年並み	平年並み	平年並み
京 都	平年並み	やや短い	やや多い
大 阪	平年並み	平年並み	平年並み
兵 庫	平年並み	平年並み	平年並み
奈 良	平年並み	平年並み	平年並み
和 歌 山	平年並み	平年並み	やや少ない
岡 山	平年並み	やや短い	平年並み
広 島	平年並み	平年並み	平年並み
山 口	平年並み	やや短い	平年並み
徳 島 (普通栽培)	平年並み	平年並み	平年並み
香 川	平年並み	やや短い	平年並み
愛 媛	平年並み	やや短い	平年並み
高 知 (普通栽培)	やや不良	平年並み	やや少ない
福 岡	やや不良	平年並み	やや少ない
佐 賀	平年並み	平年並み	平年並み
長 崎	やや不良	平年並み	やや少ない
熊 本	やや不良	やや短い	やや少ない
大 分	やや不良	平年並み	平年並み
宮 崎 (普通栽培)	やや不良	やや短い	少 ない
鹿 児 島 (普通栽培)	やや不良	やや短い	少 ない

注：1 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

2 全国の水稲作付面積に占める遅場地帯の割合は、平成26年産で31.4%となっている。

#### 4 平成27年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（8月15日現在）

##### (1) 10a当たり予想収量

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			(参考)	
		10 a 当たり 予想収量 ②	10 a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	作 付 面 積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥=①×⑤
	kg	kg	kg		ha	t
徳 島	450	446	459	97	4,580	20,600
高 知	462	459	478	96	6,750	31,200
宮 崎	411	399	471	85	7,090	29,100
鹿 児 島	396	384	435	88	4,910	19,400
沖 縄	342	341	369	92	556	1,900

- 注：1 10a 当たり予想収量①は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の数量である。  
 2 農家等が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり予想収量②、10a 当たり平年収量③及び作況指数④については、当該全国農業地域において農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（四国及び沖縄は1.75mm、九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 3 沖縄県は第一期稲である（(2)の統計表において同じ。）  
 4 全国の水稻作付面積に占める西南暖地における早期栽培等の割合は、平成26年産で1.7%となっている。  
 5 (参考) 作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。

##### (2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区 分	平 年 比 較				刈取済面積割合	
	穂 数 の 多 少	一 も 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	当 年 値	対 平 年 差
					%	ポイント
徳 島	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	15	7
高 知	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	74	19
宮 崎	少 ない	やや少ない	少 ない	不 良	99	△ 1
鹿 児 島	少 ない	平年並み	少 ない	不 良	87	0
沖 縄	少 ない	やや少ない	少 ない	やや不良	100	0

- 注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない・やや不良」が98～95%、「少ない・不良」が94%以下に相当する。  
 2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

(1) 調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

区分	調査対象都道府県	備考
早場地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、 平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場地帯	早場地帯の道県以外の都府県	

注： 沖縄県の第二期稲については、8月15日現在で田植え前の地域があり、田植期等の判断ができないことから、表記していない。

(2) なお、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲については、西南暖地における早期栽培等として別に集計している。

### 3 調査対象数

作況標本筆調査:10,248筆 作況基準筆調査:647筆 巡回・見積り:1,719市町村

### 4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

### 5 調査期日

8月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査した。

### 6 調査方法

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行った。

### 7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

### 8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較である。
- (7) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所属都道府県名	農家等使用目幅
北海道	北海道	1.85mm
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖縄	沖縄	1.75mm

- (8) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

## 9 利用上の注意

統計数値については、下記の方法で四捨五入している。

原数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例					
四捨五入する前(原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した後(統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

## 10 その他

本調査における作柄概況(8月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、8月16日以降の気象条件により作柄は変動することがある。



【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省 > 組織・政策 > 大臣官房の部局別トップへ

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省 > 組織・政策 > 生産局の部局別トップへ

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

— お問合せ先 —

本統計調査結果について  
農林水産省 大臣官房統計部  
生産流通消費統計課 普通作物統計班  
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3682  
(直通) 03-3502-5687  
FAX： 03-5511-8771  
農林水産統計全般について  
農林水産省 大臣官房統計部  
統計企画管理官 広報普及班  
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589  
(直通) 03-6744-2037  
FAX： 03-3501-9644